

十月二十一日の手紙

『(前略)先日の愛子の運動会の様子をお知らせ申し上げます。長男の小学校の運動会で、来年就学する子供たちのかけっこがあり、愛子も参加させましたら、他の友達と同じように小学校の先生に引率されて、入場門より整列して並んで入り、自分の順番の来るまで、落ち着いて先生の指示に従い、座って待ちました(去年は、友達と同じように座って待っていることができませんでした)。

かけっこはぶりから二番目でしたが、同じようにやれたことが嬉しくてたまらない様子で、先生から賞品の鉛筆と風船を頂いて、にこにこ顔で戻って来たので、「上手にやれたね」と褒めてやると、賞品を見せて、最近見せたこともないような笑顔で、とても嬉しそうでした。

心配してきた日々、雨の日に傘をさして保育室の愛子の様子を、涙を流しながら外からそっと見ていた去年のこと、何とか回復の手がかりをと、各地の学校や施設を訪ねた思い出、方々の医師を訪ねたことなど、数々の思い出が頭に浮かび、どうにか他の子と同じにやれたこと、最後まで落ち着いて先生の指示に従っておれたこと、最後の整列のわが子を見ていて、目頭が熱くなり、胸がジーンとして嬉しくてたまらず、つい涙が出てしまいました。

この喜びは、上手に手紙に書くことができません。これもひとえに温かいご親切なご指導の賜物と、深く感謝しております。

つい先日も、耳鼻科で医師の治療を受けましたが、前(九月ごろ)には、看護婦さんと私と、二人がかりでないと、治療が受けられなかったのですが、大きくなったから一人でやってもらうよう言い聞かせ、私は廊下で待っていましたら、じっと我慢して一人でやってもらうことができました。聞き分けもでき、少しずつ落ち着いてきているのを、非常に嬉しく思います。』

この手紙は、前の手紙から半月後、愛子ちゃんが友達と同じように、立派に運動会に参加できた喜びを知らせてよこしたものです。

運動会に一人で参加できたばかりでなく、つい先月まで、二人がかりでなければ、病院で治療が受けられなかったのに、これまた立派に一人で治療が受けられるようになった、その喜びが手に取るようになります。

漢字によって高められた知能が、感情的にも情操的にも安定観を生み育て、漢字が読めるという自信が、運動会でも立派に一人で行動できるようにしたのだと思います。その精神面における成長の著しさに驚くとともに、とても嬉しく思いました。